拓水

TAKUSUI
No. 718

8
August.2016

発行（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

浜坂県民サンビーチ（新温泉町）

JF兵庫漁連・JF兵庫信漁連 新会長就任挨拶

JF全漁連 岸会長と意見を交わす ～県内3カ所で熱心な議論～

《今月の海上安全標語》 ～「夏でも冬支度 晴れでも雨支度」～

落水時におけるハイポサーミア（低体温症）は危険です。
暑くても長袖を着ることで防ぐことが出来ますし、日焼けによる疲労感も違います。

備えましょう！ 夏でも冬の 支度をし では、今月も安全操業で！

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

ＡＩＳはご存知ですか？

公益財団法人 ひょうご豊かな海づくり協会
海洋保全部長兼海洋保全課長　**永山　博敏**

様々な情報が簡単に手に入る時代ですが、例えば明石大橋を通行中、橋の下を通っている大型船の名前や行き先を知ることができるのを御存知でしょうか。

インターネットで〝ライブ船舶マップ〟と検索すると、世界中の航行している大型船の名前や行き先を知ることができます。私は、行き交う海上の船を眺め、スマホ等の画面を並べ見ると飽きることがありません。

これは、ＡＩＳを利用したものですが、ＡＩＳ（Automatic Identification System）とは周囲のＡＩＳ搭載船同士や海上保安庁の組織である海上交通センター（マーチス）との間で、各船の識別番号、船名、船位、対地速度、行き先等についてＶＨＳ電波を利用し情報を共有するものです。ＡＩＳ搭載船同士の衝突防止等に役立てられるもので、５００トン以上の貨物船や旅客船等には設置が義務づけられています。

しかしながら、設置義務のない漁船等の小型船舶にも簡易型ＡＩＳは設置可能で、海上交通の輻輳する海域で、簡易型ＡＩＳを漁船に設置し安全操業に活用しようという試みがあります。中央漁業操業安全協会により、明石海峡でも地元漁業者の協力で、有効性を確認する試験が行われています。設置試験にあたり、位置情報の送信間隔等の技術的な問題、操業の情報の秘匿などの運用上の問題など、課題もあるようですが、大型船に漁船の存在を正確に知らせ避航を促したり、相手船との接近等の見張り補助としてアラームを活用するなど操業安全に役立てることができるようです。実際にＡＩＳを設置した場合は、ＧＰＳプロッター画面上にＡＩＳ情報を表示することで、前述のインターネット上で見るより実用的となるようです。

漁業者の皆さんには日常の安全確認やライフジャケットの完全着用など安全操業への意識を向上させていただくとともに、このような新しい技術も、自身の安全と家族を守るため、今後の検討材料になればと思います。

ご安全な漁業操業を祈念いたします。

CONTENTS

No.718　August. 2016

2　ようそろ
3　農林水産施策の推進に係る政策提案会
4　ＪＦ兵庫漁連・ＪＦ兵庫信漁連 新会長就任挨拶
　　ＪＦ兵庫漁連・ＪＦ兵庫信漁連・兵庫県漁業共済組合役員
5　ＪＦ全漁連 岸会長と意見を交わす
　　国際協同組合デー兵庫県記念大会
6　学校給食と漁業について 川越組合長講演
　　漁業について学ぶ“県内協同組合若手職員交流会”
7　摂津播磨地区漁青連消費流通検討交流会
　　但馬地区漁青連グループリーダー夏期研修会
8　平成28年度 淡路地区漁協青壮年部視察研修会
9　農業×漁業の若手組織連携プロジェクト
　　マガキの天然採苗にチャレンジ
10　兵庫県水産会館で避難訓練
　　海難事故をなくそう
11　兵庫JCC通信
12　旬に想う
　　大輪田塾だより

表紙の言葉

「浜坂県民サンビーチ」（新温泉町）

ユネスコに指定された山陰海岸ジオパークの地域内にあり、名勝但馬御火浦の狭間、鬼門埼の西に広がる浜坂県民サンビーチ。

「松の庭」と呼ばれる松林とともに残るこの浜は、人気の海水浴場・キャンプ場として知られ、日本の白砂青松100選に選ばれています。

自然岩が残る海岸と砂浜、松林が織りなす景観のもと、訪れた多くの人を楽しませてくれる美しい海岸は地域の財産です。

いつまでも残していきたいですね。

平成28年度 農林水産施策の推進に係る政策提案会 開催

県の翌年度予算や重要施策に系統団体の意見を反映させるための「平成28年度農林水産施策の推進に係る政策提案会」（兵庫県主催）が、7月25日（月）神戸市中央区のひょうご女性交流館で開催されました。水産業界から水産施策の提案が行われる同会には、県幹部をはじめ、系統団体から多数の関係者が出席し、毎年、この時期に開かれています。

冒頭、兵庫県農林水産局 藤澤 崇夫局長は「行政と水産系統団体が一つとなって実現した瀬戸内海環境保全特別措置法一部改正を実りあるものにするべく、栄養塩の管理を進め、資源の増加に繋げていきたい。また、改選により、系統団体の役員体制が新しくなったことで、今一度、県と水産業界との連携を強化し、兵庫の水産業振興に取り組んでいきたい。」と挨拶をされました。

また、JFグループ兵庫水産政策協議会を代表してJF兵庫漁連 田沼 政男会長は「前任の山田会長の路線を引き継ぎ、豊かな漁場再生と更なる漁業の発展に向けて取り組んでいきたい。漁船リース事業導入は、漁業者の将来に大きな影響を与えるものであるが、予算の都合上、広く円滑な事業利用には程遠い状況である。県においても国への予算拡充の働きかけについてご協力をお願いしたい。」と挨拶しました。

引き続いて、JF兵庫漁連 突々淳専務より「浜の活力の再生について」、「豊かな海づくりに向けた具体的施策の推進について」、「県産水産物の価値向上・需要拡大について」などの7項目を重点的に提案し、これらのテーマを中心に、県幹部とJFグループ兵庫水産政策協議会委員による活発な意見交換がなされました。

（文：JF兵庫漁連）

― 平成29年度 政策提案の内容 ―

要望事項

(1) 浜の活力の再生について

① 「浜の活力再生プラン」の実践、「広域浜プラン」の策定と実践に係る県からのご指導

② 「強い水産業づくり交付金」（国事業）と「水産業競争力強化緊急施設整備事業」（国事業）、「ノリ競争力強化対策」（国事業）、「漁業経営構造改善事業」（県事業）の予算拡充と運用改善

③ 「水産多面的機能発揮対策」（国事業）の予算拡充と運用改善

(2) 豊かな海づくりに向けた具体的施策の推進について

① 「ダムや堰に溜まった土砂を海へ供給する仕組みづくり」の検討・実施

② 「海砂の供給の観点で有効な漁場改善対策」の検討・実施

③ 「大阪湾奥部の停滞水域の解消」に向けた検討・実施

④ 「栄養塩と漁獲量の関連性に関する知見収集」と「下水処理場等の栄養塩管理運転の推進」

(3) 県産水産物の価値向上・需要拡大について

① 「県産水産物の消費拡大に向けたPRへの協力」並びに「流通販売拠点の強化に対する支援」

② 「学校給食として地元水産物が提供されるための支援」

③ 「学校授業における地元漁業の体験学習や地元水産物を用いた料理教室」の推進

(4) 漁船の確保について

① 「漁船リース事業（水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業）」（国事業）と「漁船リース事業（漁業施設貸与事業）」（県事業）の予算拡充

② 「機器導入事業（競争力強化型機器等導入緊急対策事業）」（国事業）の予算拡充と運用改善

③ 「水産業競争力強化金融支援事業」（国事業）の予算拡充

(5) 漁業の担い手の育成確保について

① 「新規漁業就業者総合支援事業」（国事業）と「漁業就業者ステップアップ研修支援事業」（県事業）の予算拡充

(6) 燃油高騰対策等について

① 「効率的な操業体制の確立支援事業」（国事業）の継続と「漁業経営セーフティーネット構築事業」（国事業）の更なる運用改善

② 「農林漁業用A重油にかかる石油石炭税の免税・還付措置」の恒久化

③ 「地球温暖化対策のための課税に関する還付措置」の恒久化

(7) 救命胴衣の着用推進について

新会長就任のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長
田沼 政男

この度、兵庫県漁業協同組合連合会代表理事会長の大役を仰せつかることとなりました。山田前会長の功績と、託された課題を前に、身の引き締まる思いがいたします。

昨年改正された瀬戸内海環境保全特別措置法が実りのあるものとしていくための取組みも最重要課題であり、漁業者の生活を守るため、豊かな兵庫の海の再生を成し遂げるよう取り組んでまいります。

また、燃油価格はある程度落ち着いていますが、世界情勢の不安定な中で、いつ何時激しく変動するかわかりません。このため、燃油高騰対策についても、引き続き、安心して漁家経営を営めるよう国への要請活動に取り組んでまいります。

そして、平成28年度の国の事業として、漁船の船齢の高齢化を解消し、水産業の競争力強化を図っていくことを目的とした「浜の担い手漁船リース事業」が始まります。これの円滑な実施のため「(一社)兵庫県漁船リース協会」を設立しました。一人でも多くの方が利用できるよう、事業推進に努めます。

本会は昭和51年の3漁連合併から40年を迎えます。まだまだ解決しなければならない課題が山積していますが、これからも「漁業者を力強く支え続ける組織」を目指し、役職員一同が結束し、全力で取り組んでまいる所存ですので、皆様におかれてはより一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫県信用漁業協同組合連合会 代表理事会長
中川 照央

信漁連の会長に就任しました中川でございます。

信漁連におきましては、来年4月の和歌山信漁連との合併に向けての万全の準備と、それまでの間に兵庫県としてやるべき課題の整理、また、漁船リース事業等国・県の助成を伴う各種事業への円滑な金融対応等、取り組まなければならない問題が山積しております。

このような重要な時期に、会長という大役をお預かりすることの責任の重大さに、身の引き締まる思いです。

ご承知のとおり私は、一漁業者として、つい先日まで沖に出て漁をいたしておりましたので、信漁連の業務である金融については、素人でございます。

これからは、信漁連の常勤会長として、漁業者の目線から、信漁連が、真に会員及び漁業者等利用者の皆様方に喜んで使っていただける「浜の金融機関」を目指し、役職員一同と一丸となって誠心誠意つとめてまいりますので、会員の皆様におかれましても、一層のご支援、ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げまして、新任のご挨拶とさせていただきます。

※６月に行われました３団体総会（既報：拓水№717）の後、ＪＦ兵庫漁連・ＪＦ兵庫信漁連・兵庫県漁業共済組合の役員が決まりましたのでお知らせいたします。

	ＪＦ兵庫漁連	ＪＦ兵庫信漁連	兵庫県漁業共済組合
理事	田沼 政男代表理事会長（ＪＦ林崎）	中川 照央代表理事会長（ＪＦ室津）	川越 一男組合長理事（ＪＦ浜坂）
	東根 壽副会長理事（ＪＦ淡路島岩屋）	村瀬 晴好副会長理事（ＪＦ但馬）	前田 若男副組合長理事（ＪＦ福良）
	突々 淳専務理事（員外）	里 昭彦専務理事（員外）	石原 満専務理事（員外）
	中谷 義昭理事（ＪＦ神戸市）	中谷 義昭理事（ＪＦ神戸市）	田沼 政男理事（ＪＦ林崎）
	戎本 裕明理事（ＪＦ明石浦）	田沼 政男理事（ＪＦ林崎）	社領 弘理事（ＪＦ一宮町）
	中川 照央理事（ＪＦ室津）	岡田 武夫理事（ＪＦ坊勢）	中川 照央理事（ＪＦ室津）
	漣 勝也理事（ＪＦ室津浦）	大河 優理事（ＪＦ赤穂市）	村瀬 晴好理事（ＪＦ但馬）
	前田 若男理事（ＪＦ福良）	東根 壽理事（ＪＦ淡路島岩屋）	東根 壽理事（ＪＦ淡路島岩屋）
	村瀬 晴好理事（ＪＦ但馬）	前田 若男理事（ＪＦ福良）	磯田 和志理事（ＪＦ但馬）
	川越 一男理事（ＪＦ浜坂）	川越 一男理事（ＪＦ浜坂）	中谷 義昭理事（ＪＦ神戸市）
監事	小溝 政二代表監事（ＪＦ育波浦）	橋本 幹也代表監事（ＪＦ江井ヶ島）	岡田 光司代表監事（ＪＦ仮屋）
	高瀬 博文監事（常勤監事）	磯田 和昭監事（常勤監事）	山本 章等監事（ＪＦ西二見）
	中村 利公監事（ＪＦ家島）	杉谷 富弘監事（ＪＦ湊）	島田 正彦監事（員外）
	島田 正彦監事（員外）	清水 浩幸監事（員外）	

（順不同）

JF全漁連 岸会長と意見を交わす
～県内3カ所で熱心な議論～

多くの系統団体役職員が集まりました（水産会館にて）

7月1日（金）、JF全漁連 岸 宏会長は参議院選挙応援のため、兵庫県水産会館（明石市）、JF淡路島岩屋およびJF育波浦（ともに淡路市）を訪問された際、JF全漁連が進める〝浜プラン〟や〝漁船リース事業〟等について、各JF・系統団体の役職員と意見交換を行いました。

各会場で、岸会長は「日本列島はおおよそ35、000キロの海岸線に6、300の集落がある。全国に約27万隻の漁船があることから、計算すると130メートルごとに一隻、船が浮かぶことになる。これは日本の領土の保全にも繋がるものであり、この漁業が担う重要な役割を、漁業者は認識してもらいたい。また、漁船エンジンの換装、船の建造および燃油対策など補助事業の仕組みは整った。更に多くの漁業者が利用できるよう、5年間で1千億円の予算確保を目指したい。そして、漁業者は漁業の進むべき道、方向性を示す〝浜プラン〟に積極的に取組むことで、国に漁業者が大きく変わったことを見せていただきたい」と熱い想いを語られました。

一方、漁業者からは、漁船リース事業や機器導入事業に対して「多くの申請があると考えるが予算は足りるか」、また「漁家経営を計画的に進めるには、確実に手当される方が、補助率が下がっても安定的に事業を利用できる」といった質問があり、岸会長は「事業を基金化することで多くの方々に利用してもらえる。事業期間を5年間に設定し、1／2補助を守りたい」とされました。ほかに、漁業者から「資源管理の観点から瀬戸法改正による湾・灘の取組みを強化するが、淡路市山間部に大規模の太陽光パネルが張り巡らされている。山肌に日がさしこまれなければ、これまでの〝漁業者の森づくり〟活動に水を差すことになる。対策を急がれたい」といった意見も出されるなど、各地で終始盛んな意見が交わされました。

JF育波浦にて記念撮影（写真提供：JF全漁連）

JF淡路島岩屋にて記念撮影（写真提供：JF全漁連）

第94回 国際協同組合デー兵庫県記念大会 開催される

7月第1土曜日の国際協同組合デーにあわせて毎年行われている「国際協同組合デー兵庫県記念大会」は今年で94回目を数えます。7月1日（金）、兵庫JCC（兵庫県協同組合連絡協議会）主催による同大会が神戸市内で開催され、関係者約300人が集まるなか、協同組合運動の前進を誓いました。

第1部の記念式典では、JA兵庫中央会 石田 正会長が主催者を代表して「人・モノ・金の動きが活発化し、格差が拡大しているなか、地に足のついた協同組合運動に今後も力を入れていく」と挨拶をされました。来賓祝辞に続き、コープこうべ 岡本 孝子理事による「〝協同組合は地域・社会に貢献できるか〟をテーマに、協同組合間協同の連携関係を継続させる取組みをさらに前進させ、〝協同の力で未来を拓く〟をスローガンに一層努力していく」とした兵庫JCC宣言は満場一致で採択されました。

会場には大勢の関係者が詰めかけました

第2部の記念講演では「協同（人のつながり）の力で地域の課題を解決しよう！～兵庫の協同組合に期待しています～」と題し、山崎 亮氏（studio-L代表）が講演を行いました。全国各地で地域コミュニティーの創造を進めてこられた山崎氏は、多くの事例を紹介されたのち「人は正しいこと以外に楽しさがないと動かない。理論でなく感性を取り入れることが大事。人と繋がる方法は沢山あるが、直接出向いて顔を合わせるようにすることで協同組合はもっと良くなるのでは」とされ、コミュニティーデザインと協同組合の融合に期待を寄せられました。

様々な事例を分かりやすく紹介された山崎氏

学校給食と漁業について川越組合長が講演
～但馬学校給食研究協議会にて～

7月21日（木）、新温泉町立浜坂中学校に隣接する新温泉町役場浜坂学校給食センターにおいて但馬学校給食研究協議会の講演会があり、JF浜坂 川越 一男組合長は、会場に集まった学校給食に携る教員ら約130人を前に講演を行いました。

「地元の食材と漁業の関わり その魅力を伝える」と題した講演で、川越組合長は浜坂の漁業や魚について説明した後、「兵庫の魚食文化に興味をもってもらう」「食生活に兵庫の食材の割合を高める」「兵庫の漁業を支えてもらうための意識醸成」といった目標を掲げて同JFが行う、コープこうべとの料理教室や地元小学校への食材提供などの取組みを紹介されました。また、学校給食については「近年はバランスの良い、美味しい給食を提供されていると聞いています。そこへ、今後、魚の規格や数量確保について調整は難しいけれども、地元産の魚を使って頂けるようお願いしたい」と締めくくられ、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

自ら出向いて小学校で魚食普及に努める川越組合長

漁業について学ぶ〝県内協同組合若手職員交流会〟を開催

JF兵庫漁連は生活協同組合コープこうべより「協同組合間協同の連携・強化を図るため、県内の協同組合の若手職員同士の交流会」の開催提案を受け、7月4日（月）に「県内協同組合若手職員交流会」を開催しました。

この日集まったのは、コープこうべ、県内4JFの職員、関係者など約30名で、JF明石浦でのセリ見学や、兵庫県水産会館で、協同組合間の組織、業務の内容などの違いを認識し、意見を交わすグループワーク等が行われました。

また、JF兵庫漁連担当者は漁場環境について話したほか、コープこうべとJF兵庫漁連協働で行う地魚普及の取組みを紹介し、「様々な協同組合が集まり、協同組合間協同として現場レベルで進めることが出来るものがあるのではないか」と締めくくりました。

意見交換では、多くの意見が寄せられ、研修終了後も熱心に話し合う参加者の姿が見受けられました。

底曳船の説明を受ける参加者

有意義な意見交換の場となりました

摂津播磨地区漁青連が消費流通検討交流会を開催

～関学生との交流の輪が広がる～

タコ料理に挑戦するゼミ生を指導をする大西会長

セリの雰囲気を体験することが出来ました

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西 正起会長：ＪＦ伊保）は、関西学院大学文学部 田和 正孝教授のゼミ生との交流を平成25年から続けており、今年も「消費流通検討交流会」と題して7月9日（土）、明石市内で開催されました。

田和教授とゼミ生ら17名と、初めて参加した但馬地区漁協青壮年部連合会 山中 康正会長をはじめとする部員・事務局の6名は、まずＪＦ明石浦のセリを見学しました。同ＪＦ業務部 宮部 博行部長から説明を受けた後、入札業者と同じ目線で見ることが出来る見学者スペースから見たゼミ生らは、目の前で素早くセリ落としていく光景に驚いたようで、熱心にメモを取ったり、カメラに収めたりしていました。

兵庫県水産会館に移動後、自分達の昼食となる調理実習を行いました。生きたマダコと釜揚げシラスを使った料理を完成させて、昼食を摂りながら兵庫の漁業についての説明を受けるなか、この日参加したＪＦ浜坂 濱根 秀樹さんから日本海の漁業についても詳しく話を聞くことが出来ました。最後のロープワークでは、縄梯子の作製に挑戦し、部員の手ほどきを受けながら作業を進め、完成とともに歓声が上がっていました。

この交流会がきっかけで始まった、大学生協へ食材を提供する魚食普及活動「ＬＯＶＥ ＳＥＡ丼」の取組みは、今年から神戸大学も含めた県内6大学生協との協同組合間連携へと発展しました。また、同ゼミ生の卒業論文作成への調査協力・取材の受入れをすることによって、漁業や海に関する積極的な情報発信を行うなど、ますます交流の輪が広まっています。

但馬地区漁青連グループリーダー夏期研修会を開催

～ホタルイカやハタハタに関する2講演も行われる～

但馬地区漁協青壮年部連合会（山中 康正会長）は、新温泉町のホテルで「平成28年度但馬地区漁青連グループリーダー夏期研修会」を開催し、行政などの関係者も合わせて約40名が参加しました。

山中会長は「魚食普及活動は、青壮年部だけでは難しいので、今後は各女性部や系統団体と一緒に行い、盛り上げていきたい」と挨拶され、来賓の県但馬水産事務所水産課 大石 賢哉課長は「地域の水産加工業、観光業と一緒になった取組みが大事である」と今後の同漁青連の活動に期待を寄せられました。続いて、ＪＦ浜坂青壮年部 井上 慎友さんが「平成27年度但馬漁青連 技術視察研修報告」と題して、〝道の駅 萩しーまーと〟、萩水産物地方卸売市場、西日本ニチモウ㈱での視察内容について発表を行いました。

西川上席研究員の講義

その後の研修は2課題行われました。「計量魚群探知機を使った但馬沖のホタルイカ漁場の探索」と題した研修では県立水産技術センター 西川 哲也上席研究員が、漁業調査船「たじま」に搭載されている計量魚群探知機を用いたホタルイカ漁場の探索結果を紹介し、魚探に映る反応のうち、ホタルイカのものだけを抽出する方法その効果について話されました。次に「ハタハタの資源生態」として独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 藤原 邦浩氏より講演がありました。但馬地区漁業の重要な資源であるハタハタの生態等について詳しい説明があり、最新の研究内容も紹介され、参加者は熱心に聞き入っていました。

ハタハタの話に耳を傾ける参加者

平成28年度 淡路地区漁協青壮年部視察研修会

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長：ＪＦ淡路島岩屋）は、平成28年度の視察研修会を滋賀県で開催しました。

７月12日（火）～13日（水）の２日間にわたって行われた研修会では、琵琶湖の環境保全に関する取組みや、エンジンの構造などを学ぶため、山田漁業協同組合と滋賀県水産振興協会（ともに草津市）、ヤンマーミュージアム（長浜市）を訪れました。

山田漁協では、南湖（琵琶湖は人間で言う「くびれ」を境に北湖と南湖に分けられる）が直面している水草の異常繁茂による漁業被害状況を同ＪＦ 横江組合長からお聞きしました。外来種のカナダモという水草が異常繁茂した後に起こる湖底の貧酸素状態が原因で、セタシジミなどの漁業資源を死滅させているとの説明を受けた後、船上から南湖の沖合いでマンガンを使用した水草除去を見学しました。１分ほど曳くだけでマンガンのツメが一杯になった水草の量に参加者は驚いていました。

滋賀県水産振興協会では、鮒ずしの原料になる「ニゴロブナ」を飼育する水槽や、水草を餌とする「ワタカ」の孵化・稚仔魚の飼育を見学しました。ここでは、漁業対象でないワタカを、水草異常繁茂の対策として飼育しているとのことでした。

滋賀県漁青連 中村会長から講演がありました

続いて、滋賀県漁業協同組合連合青年会 中村会長から「琵琶湖の漁業について」と題した講演があり、えり漁業（小型定置網）や小糸網（刺網）など、兵庫県でも行われている漁法の他、あゆ沖すくい網漁（船舶のやぐらの上からアユの群れを探して追いかけ、追いつく直前に前方の網を入れて掬いとる漁法）など琵琶湖特有の漁法について説明を受けました。

また、滋賀県水産課 漁場環境・資源係 久米氏の講演「琵琶湖の環境について」がありました。久米氏は「北湖は平均水深が約40ｍだが、南湖は平均水深が５ｍ程と浅い。そのため南湖ではセタシジミなどの貝類が沢山獲れていたが、今は水草の影響によりほとんど獲れていない。現在、その対策として、湖底耕耘による水草の除去などを行っている。湖底耕耘を実施している場所としていない場所を比較すると、実施している場所は湖底での貧酸素状態の改善が見られる」と話されました。

翌日に訪れたヤンマーミュージアムでは、担当者からヤンマーミュージアム設立に至った経緯や施設の説明を受けた後、農業機械や建設機械の説明や実物大模型を見学し、油圧システムの原理、エンジン製作の行程や船舶のスクリューの構造などについて学習しました。

（文：淡路地区漁協青壮年部連合会 事務局）

ディーゼルエンジンについて学びました（ヤンマーミュージアム）

農業×漁業の若手組織連携プロジェクト
～淡路産の農水産物を使った料理教室～

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長：JF淡路島岩屋）は、洲本市の農業後継者グループ「洲本市農業青年会議」と協力して、淡路島の農水産物PRや食の楽しさを伝えようと、家庭の主婦ら約40人を対象に、7月9日（土）淡路市内で料理教室を開催しました。

講師は渡邊 直さん（JF由良町）が務め、参加者は、真鯛のアクアパッツァ、タコのカルパッチョ、夏野菜とワカメの天ぷら、パエリア、グラタンと多彩なメニューに学びました。最初に挑戦したタイの三枚おろしでは、講師の包丁の使い方を熱心に学んだため、それぞれ上手に捌くことが出来ました。また、炊いて食べることが多いワカメの茎の部分は、天ぷらにすることで、普段と違った美味しく新しい味を知ることが出来ました。その他、グラタン作りでは、炊いたご飯と牛乳をミキサーにかけてホワイトソースを作るという方法が披露され、参加者だけでなくスタッフも驚いていました。こうして出来あがった様々な料理に、参加者は舌鼓を打ちつつ、淡路の食材の魅力を再認識することが出来ました。

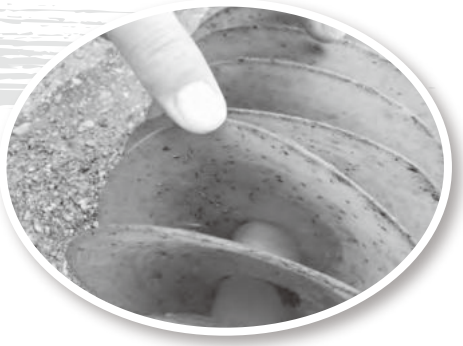
今後の活動としては、今回の料理教室の反省と次の事業についての打合せを行い、さらに淡路島の食材を広くPRしていく活動へ結び付けていく予定です。

（文：淡路地区漁協青壮年部連合会）

親子で楽しく学びました

淡路島産の食材で様々な料理が出来ました

マガキの天然採苗にチャレンジ
～伊保漁協水産研究会の取組み～



かなりの数の種苗を確認！期待したいです！

伊保漁協水産研究会（大西 良典会長）では、今年度から（一財）兵庫県水産振興基金の支援をいただき、兵庫県立水産技術センターと普及員の指導のもと、マガキの天然採苗にチャレンジしています。

一般的にマガキの産卵時期は6～8月で、水温23～25℃になると産卵すると言われています。その後、孵化した幼生は浮遊生活を経て付着生活に入ります。このため付着生活に入る直前の成熟した幼生が多く見られるときが、採苗器を海中に設置するタイミングになります。

ただ問題はどこに付着器を設置するかです。カキの浮遊幼生は、目でみたところで、わかるような大きさではありません。7月に入ってからは、採苗器を設置する場所を決めるために、天然マガキがいる付近の海水をあちこちで採取し、顕微鏡で浮遊幼生を探しては、ため息をついていました。

しかし、先日。ついに付着生活に入る直前の成熟した幼生がたくさんいる場所を発見し、採苗器を設置することができました。そこは、当初の予測と異なり、その日、たまたま「見てみようか」となった場所で、これはかなりラッキーでした。

これまで当研究会ではマガキの試験養殖に取り組んできました。風浪を遮るものがない場所の養殖方法に一定の方向性が見えてきたところですが、まだまだ多くの課題が残っています。中でも、天然採苗の実現は、採算面を改善するうえでの重要なテーマです。

採苗器を設置してから、ちょうど1週間。さきほど見てきたところ、かなりの数の種苗が確認できました。〝果たして、順調に育つことができるのか〟と思いますが、期待の方が大きいです。

（文：伊保漁業協同組合水産研究会）

浮遊幼生を探すメンバー

兵庫県水産会館で避難訓練実施
～AED講習会も併せて行う～

7月29日（金）、兵庫県水産会館に勤務する職員の防火・防災の意識や知識の向上を目的にした消防避難訓練が、明石市消防署の指導のもと行われました。

午前10時、館内に火災警報装置のベルの音が鳴り響きわたると、各団体の消防担当職員による速やかな避難誘導があり、館外への退避は想定時間内で完了しました。併せて水消火器を使った実習も行いました。

続いて、水産会館会議室にて、緊急時に適切に使用されること目指したAED講習会があり、署員からの説明を受けた参加者は人形を使った訓練に参加しました。初めて講習を受ける職員もおられたようで、皆、真剣な表情で実習に参加するとともに、普段から防災意識を持ち、慌てず行動することの重要性を再確認したようです。

AEDの使用方法を学ぶ貴重な場となりました

消火器の使用体験の様子

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着用しよう！

固型式ライフジャケットはメンテナンスの手間がなく、最近は動きやすいように工夫されています。なお、着用の際は体にあったサイズを選ぶか、金具等を調整して使用しましょう。

固型式ライフジャケット
モデル：JF兵庫漁連総務部 岡田 早生さん

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

モデル：JF兵庫漁連指導部 岡田 竜幸さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078－942－9272）までお問い合わせください

JA共済presents 地域・農業活性化ラジオ番組 好評放送中！

ＪＡ共済連兵庫は、地域の情報を発信するラジオ番組「ＪＡ共済 presents 近藤夏子のサンキューサンデー」の放送を6月5日から開始しました。

同番組は、パーソナリティの近藤夏子さんがJAと地域とのつながりから生まれる「地域ならではの情報」や「生産者の熱意」などを、インタビュー形式で届けます。

６月はＪＡあかし、ＪＡ加古川南、７月はＪＡ兵庫みらいの生産者が紹介されました。8月に放送するＪＡたじまでの収録では「たじまピーマン」、特別栽培米コシヒカリ「コウノトリ育むお米」、但馬牛の生産者やファーマーズマーケット「たじまんま」が取材されました。９月以降に紹介されるＪＡは次の通りです。

9月	ＪＡ兵庫西	2月	ＪＡ淡路日の出
10月	ＪＡ丹波ささやま	3月	JAハリマ、Aあいおい
11月	ＪＡ丹波ひかみ	4月	ＪＡみのり
12月	ＪＡ兵庫南	5月	ＪＡ兵庫六甲
1月	ＪＡあわじ島		

ラジオ関西（558kHz、豊岡1395kHz）で毎週日曜の午前９時30分～９時59分に放送。収録の様子を、ラジオ関西のホームページで見ることができます。

パーソナリティーの近藤さん（右）のインタビューに答える生産者

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

全労済 三宮センタープラザ店 6月OPEN

兵庫労働共済生活協同組合では、組合員の保障相談をおこなう窓口として神戸・尼崎・姫路の３店舗に加えて、三宮センタープラザ内に兵庫県下４店舗目となる全労済三宮センタープラザ店をOPENしました。

店内には飲み物サービスや車いす専用スペースを備えており、組合員が落ち着いて保障相談できる環境を目指しています。６名の店舗スタッフは、笑顔で丁寧な対応を心がける事、組合員目線での保障相談をおこなう事、保障の生協として組合員とより長くつながり続ける事をモットーに、組合員の保障相談をおこなっています。

また、新たに組合員になっていただく方を増やしていくため、組合員からの紹介活動、インターネット・折込チラシ等の広告宣伝活動を積極的に展開しています。

なお、現在の営業時間は平日10時～17時ですが、８月からは土曜日営業（予約優先）もおこなう予定です。

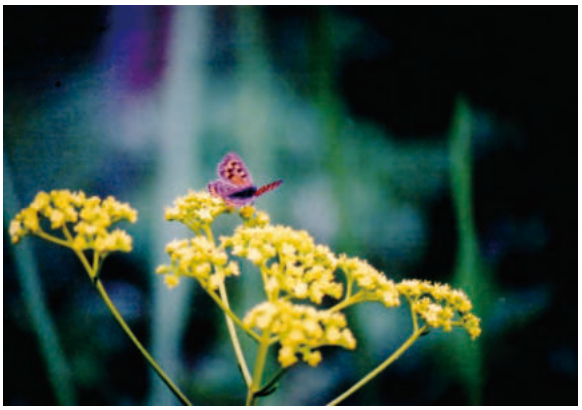
全労済 三宮センタープラザ店

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

旬に想う

写真と文
遊方子

蝉しぐれ



女郎花に紅しじみ

◆日本は蝉（セミ）の宝庫といわれ、32種4亜種が生息している。セミは南方系の虫で大部分は南西諸島におり、近辺ではニイニイゼミ・アブラゼミ・クマゼミ・ミンミンゼミ・ヒグラシ・ツクツクボウシの六種が知られる。筆者の庭ではクマゼミが生け垣のマサキから出て羽化する。昨年は七十匹を超すセミが羽化したのが、残した抜け殻で判る。数匹が裏口の網戸で羽化し戸締り時に困った。羽化は一時間と少し掛かり、羽化直後は淡い緑色を帯びて宝石のように美しく、大切にしたい気持ちにさせられる。画帳へのスケッチが記録として残っている。

◆あたりが暗くなると、セミの幼虫（蛹）が地中から這い出し、手近な樹の幹や枝に登る。直ぐ羽化が始まる。背中が割れてデングリ返りの形でブラ下がるが、この時に幹や枝にシッカリ掴まっていないと落下する。柔らかな時に少しでも障りがあると、羽が旨く伸びずに飛べなくなる。なかにはドジなのがおり、毎年何匹かが失敗して骸を晒す。また、天敵のヒヨドリにも狙われる。セミは雄しか鳴かない。古代ギリシア詩人は『蝉は幸せだ、沈黙の妻を持つから』と謳ったが、この夏に羽化したクマゼミは「沈黙の妻」に巡り会えたかどうか…。

◆蝉しぐれの頃。八月十三日夕刻から十六日早暁にかけて降る雨を、九州南部地方で「御精霊雨」と呼んでいた。この時期が月遅れの盆だから、最も精霊が満ち溢れる。六日に広島、九日に長崎で原子爆弾のため多数の人が亡くなり、十五日は終戦記念日で慰霊の祭祀が続く。天にも地にも精霊が満ち満ちて雨が降る。九州のその地方では盆に帰ってくる先祖の霊を、御精霊サマと呼び丁重に迎えて供養を行ったというが、昭和四十年半ばには過疎となり、集落も棚田も無くなったそうで、御精霊雨も幻と消えて仕舞った。山電松江海岸駅の周辺に桜樹が数本あり、盛んにセミ時雨を聞かせている。戦病死した父を思う。

◆秋の暮れにヒグラシが鳴き始める。木に生み付けられたセミの卵は、翌年の夏に孵化、その後丸五年も地下に潜って七年目に成虫になる。約十日の間に配偶者を探して懸命に鳴く。ヒグラシのカナカナカナは妙に寂しく聞こえる。ツクツクボウシは秋遅くまで鳴いて、やがて秋風と共に消えて仕舞う。生物季節資料では、夏の初鳴き前線は南から北へと動くが、秋の前線パターンは北から南へと移行する。ヒグラシは6月中旬に北海道で鳴き始め、8月始め九州中部で鳴くが、ここ数年は鳴き始めが早くなったとか、地球温暖化の影響かも知れない。この蝉は哀愁が漂い「抜け殻に 並びて死ぬる 秋の蝉／丈草」とある。

大輪田塾だより

7月は2日間、3講座の開講

7月の大輪田塾は12日（火）と26日（火）の2回開講されました。

12日は「水協法概要」で、県水産課漁政班 眞鍋 厚班長、都倉 由樹主査から、水協法の内容や成り立ちのほか、協同組合の歴史や性格なども含めた幅広い内容で解説がありました。

26日は2講座がありました。「漁船保険制度の現状と今後」では、兵庫県内海漁船保険組合 沢辺 義典専務から、漁船保険制度の歴史的背景、制度の仕組みについて学んだほか、来年4月の全国統合に向けて進んでいる合併団体についても話を聞くことが出来ました。また、「水産物の輸出について～全海水の取組みから学ぶ～」と題した講座では、（一社）全国海水養魚協会 中平 博史専務から、ロシアや東南アジア諸国への養殖魚の輸出について話がありました。「何が求められ、誰に提案し、価値を如何に届けるのか」との考えを基に行われた現地調査の手法やプレゼンテーション内容が紹介され、塾生は水産物の輸出の可能性に興味を持ったようで、最後まで熱心に聴講する姿が見受けられました。

漁船保険制度について学びました（26日）

塾生との対話から始まった中平専務の講義（26日）

水協法概要の様子（12日）

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336